

達成状況評価シート①中長期計画に対する自己評価 (1ページ以内)	
全体評価	S : 当初の計画を超え、目標を上回る顕著な成果が得られている A : 当初の計画を着実に実行してきており、目標に対し十分な成果が期待できる B : 当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる C : 当初の計画について半数以上の取組について未達であり、取組や目標に関して一定の見直しが必要である。 D : 当初の計画を大幅に下回っており、目標の達成見込みがないため、計画に関する抜本的な見直しが必要である。
A	
評価理由	<p>当プラットフォーム(「ひょうご産官学連携協議会」以下、「当協議会」という。)では、2018(H30)年4月より当協議会のメンバーで大学のプラットフォームである一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸(以下、「当コンソ」という。)に1短期大学・2賛助会員企業が加盟し(加盟校は41大学等となり、県下56大学等の内73%が加盟となった)、体制が強化された。</p> <p>当協議会では、中長期計画において10課題を設定し、課題を解決するために15の取組を計画・実施している。2018(H30)年9月末日現在までの実施状況について、3つの取組についてはS評価、10の取組についてはA評価、2つの取組についてはB評価とした。全体としては、5年間の中長期計画の1~2年目として着実に実行しており、目標に対し十分な成果が見込めるとの判断でA評価とした。</p> <p>なお、S評価の取組については当協議会のアプローチの充実度を表すものであるが、今後の実施に向けては指標の数値目標を再設定することも検討する。A評価の取組については達成目標の実現に向けて更なる充実を図る。B評価の取組については指標の達成目標年度が次年度以降であり計画をほぼ実行できているものの、更に改善の余地があるとの判断から当該評価とした。</p> <p>各取組について、当協議会の評価及び改善の手順に則り、次年度に向けて適宜見直しを行うとともに、各課題の解決のため、当コンソの賛助会員の増加を含め、地域の産業界との更なる連携強化を図るべく連携協定締結先の追加に向けて調整を進めている。</p>
評価に関する備考(考慮すべき事項)	
<p>当協議会では、各取組を一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸の各事業委員会にて分担して実施しているため、課題の解決に向けて、各事業委員会が情報共有し、連携を密にして進めることが重要である。このため、2018(H30)年4月より事務局体制を強化しており、今後はさらなる連携のもと、着実に成果をあげていきたい。</p>	

発展型 I) (ひょうご産官学連携協議会)

<p>③大学進学者の県内残留と円滑な高大接続</p>	<p>合同説明会への参加生徒数：200名 (平成33年度)</p>	<p>(取組1) 高大連携事業 (ひょうご高校大学コンソーシアム) 兵庫県での高大連携・接続の具体的な課題についての定期的な意見交換会 (進路指導協議会) や県内各地での合同説明会の開催などを通じて、県内大学進学率の向上を図る。</p>	<p>年1回の会合開催 県内3ヶ所での合同説明会開催 (平成31年度以降)</p>	<p>2021年度から合同説明会を開催するため、所管する高大連携委員会にて内容の検討及び高等学校関係者との会合を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●高大連携委員会 第1回委員会：2018 (H30) 年 6 月 28 日 ●会合の開催 参加大学：14 大学 32 名 参加高校：31 高校 35 名 日時：2017 (H29) 年 12 月 26 日 内容： ①講演「新学習指導要領と高大接続について」 講師：文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教育課程企画室長 白井俊氏 ②グループに分かれての意見交換「大学入学者選抜方法の変更による中等教育 (高等学校教育) への影響と大学における入試改革」等 	<p>A</p>
<p>④高等教育機会の偏在への対応</p>	<p>開講科目数：10 科目 (平成33年度)</p>	<p>(取組1) 単位互換事業 (共通講座の開講) 県内の大学に通う全ての学生に、幅広い科目の履修機会を提供するため単位互換事業を実施する。とくに、集中講義 (キャリア形成、資格対応、含むインターンシップや企業協力の PBL 等)、e-learning 等の教育プログラムの開発を行う。</p>	<p>地域別の集中講座もしくは e-learning による講座提供の仕組みの構築。</p>	<p>2021 年度までに県内のいずれの地域でもキャリア形成等の一定の科目が受講できる仕組みを構築するため、まずは所管する教育連携委員会において、e-learning の活用など効果的な開講形態について検討する部会を設置し、検討を開始した。また、2018 (H30) 年 9 月 1 日から大手前大学コンテンツセンターの共同利用を試験的に開始した。 また、単位互換事業として、2018 (H30) 年度は地域 (海外含む) に焦点をあてた集中講義を 7 科目開講した。</p>	<p>A</p>

2. 地域課題と向き合う交流を通じた社会人基礎力の養成事業				
<p>⑤地域の防災等を担う人材の育成</p>	<p>「ひょうご災害・防災リーダー」認定学生数：100名 (平成33年度までののべ数)</p>	<p>(取組1) 阪神・淡路大震災の経験を有する兵庫県で地域の防災等を担う人材養成プログラムを実施する。 プラットフォーム参画大学の学生と県内外の各団体が連携し、阪神・淡路大震災の経験、教訓を学ぶ場の提供や東日本大震災や熊本地震災害での実際の支援活動に取り組み、被災地の復興支援の体験やそこから派生する防災への取り組みを学び、自主的且つ自発的に活動に取り組める学生を育成するとともに災害・防災リーダーを養成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阪神・淡路大震災について学ぶ場や県内でのボランティア研修により、実質的なボランティアを企画・実施。 ・宮城県名取市、熊本県益城町でのボランティア活動の継続により、時間経過に伴うニーズの変化や復興の過程を学ぶ。 ・震災直後やその後の復興の過程を学ぶとともに、今後の防災・減災に向けて何ができるのかを考え、実践に移せる「ひょうご災害・防災リーダー」を養成。 <p>※「ひょうご災害・防災リーダー」 2年以上継続して活動に取り組み、リーダー研修の受講及び各グループ活動での実践的取組みを最後まで遂行した学生。</p>	<p>プログラム参加学生数： 250名(平成33年度までののべ数)</p>	<p>以下のとおりプログラムを実施し、2017(H29)年度は42名の学生が参加し、そのうち10名が学生リーダーとして活動した。 リーダーは、左記の学生を対象とし、平成29、30年度の2年間では、19名の学生が対象となる。</p> <p>■実施プログラム 2017(H29)年度は東日本大震災・熊本地震災害復興支援学生ボランティア事業として、約5か月のプログラムを実施。その後、参加学生の中から九州北部豪雨災害ボランティアに参加する学生も出るなど、自発的に活動に取り組む学生の育成に繋がっている。アンケート結果でも90%以上の学生が当該活動について、満足・大変満足との回答であった。また2018(H30)年度は学生災害ボランティアネットワーク事業として活動を展開。参加学生40名(うちリーダー9名)は5月から研修を開始し、宮城県名取市(8月実施)、熊本県益城町(9月実施)でのボランティア活動の実践に取り組み、現在10月6日の振り返りの会を残すのみである。今年度は特にリーダー養成を重視し、リーダーを対象とした合宿研修も開催。参加人数の課題は残るが、県内災害である阪神淡路大震災や丹波豪雨災害から災害・防災の基礎を学ぶ機会を設けるなど、宮城・熊本の大学、地元社会福祉協議会等各共催団体との連携の強化により、充実した活動プログラムを展開できている。</p>

発展型 I) (ひょうご産官学連携協議会)

<p>⑥地域で活躍できる人材の育成</p>	<p>リーダー(企画・運営を担える人材)の育成: 50名/年</p>	<p>(取組1)地域(子どもやその保護者等)との交流を図るイベントを企画・運営し、異世代交流の体験を通じた幅広いコミュニケーション力、前に踏み出す力(アクション)、考え抜く力(シンキング)、チームで働く力(チームワーク)を、実践によって身につけさせ、地域で活躍できる人材を育成する。 参加学生には地域の子どもの状況やその背景についても学ぶ機会を提供することにより地域における子どもの現状(少子化等)と課題を踏まえた取り組みに繋げる。</p> <p>※「リーダー(企画・運営を担える人材)」 イベントの参加学生のうち、実行委員として当該イベントに関する企画、各種調整・交渉、運営等を担った学生。</p>	<p>参加学生数: 200名/年 参加者(親子)数: 1,000名/年</p>	<p>参加20団体から各3名、参加団体代表者の中から2名の計62名が学生委員として企画・運営を担い、以下のとおりのプログラムを実施して、学生225名、一般(親子)552名の参加があった。</p> <p>■実施プログラム 2017(H29)年11月26日に「こべっこランド」で「キッズフェスティバル2017」を開催。9大学20団体が18ブース(2ブースが合同)を出展した。5月に参加団体を募集し、6月から5回の学生実行委員会を重ね、左記の能力を養成した。学生リーダー・サプリーダーを中心に、学生たちが主体的・積極的に学生交流・大学間交流を行った。 実施後の参加団体のアンケートでは、対応力・実践力・コミュニケーション力で成長したとの回答が多く得られた。</p>	<p>A</p>
<p>⑦地域産業ニーズに対応した人材育成</p>	<p>公開情報を閲覧もしくは資料配布を受けた学生数: 10,000名 (平成33年度までのべ数)</p>	<p>(取組1)地域産業のニーズ調査 ひょうご産官学連携協議会に参画している地域の産業界の協力を得て県内企業が求める人材、大学において習得すべき知識・技能についての情報を収集し、大学プラットフォーム(大学コンソーシアムひょうご神戸)HPにおいて公表する。</p>	<p>協力企業数: 平成33年度までに50社 HPでの情報公開: 平成31年度より実施 資料作成: 平成32年度に作成</p>	<p>地域産業ニーズを理解し、県内企業から求められる人材を育成するため、地域産業ニーズを適切に学生に周知することを目指し、当期間は企業が求める人材像(採用選考での重視項目)や、大学等教育機関において習得すべき能力や知識等についてのアンケート調査を実施。兵庫県内企業36社より回答を得た。</p>	<p>A</p>
<p>⑧地域企業経営者による実践的講座の提供</p>	<p>講座開講数: 10講座 (平成33年度までのべ数)</p>	<p>(取組1)地域の企業経営者が講師を務める講座の開講 ひょうご産官学連携協議会に参画している地域の産業界の協力を得て、企業経営者を講師として講座を開講する。経営者の理念や思いをお聞きし、実社会を学ぶ。e-learningシステムでの公開も検討する。</p>	<p>講師依頼・アンケート調査実施数: 平成33年度までに企業経営者100名を対象に実施</p>	<p>地域企業経営者による実践的講座の開講のため、当期間は本取組の趣旨について、当協議会参画団体の兵庫県中小企業家同友会など各種経済団体に説明のうえ意見交換を行い、準備を進めた。並行して、当面の取り組みとして、神戸学院大学が実施する「グローバルビジネス入門講座」を加盟校に開放する。</p>	<p>B</p>

3. ひょうご神戸の国際性を活かしたグローバル教育支援事業					
⑨ “ひょうご神戸” の国際性を活かしたグローバル人材育成	本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の 80% 以上 (期間中に2回測定)	「国際都市神戸」を有する兵庫県の大学・短期大学・短期大学部・高等専門学校が加盟するコンソーシアムとして、グローバル人材育成を目指した事業を展開する。	参加留学生数： 10 大学・35 名以上 (最大 40 名) / 年 受入企業・団体等数： 20 企業・団体以上 / 年	当協議会加盟校の学生の国際理解を深めるため、以下のプログラムを実施した。 2019 年度プログラムの実施にあたっては、国際理解が深まった度合いを測定するアンケートを実施する。 ■実施プログラム 「ひょうご留学生インターンシップ」 参加大学：10 大学 参加留学生数：42 名 受入企業・団体数：24 社 ・推薦学生ガイダンス ・推薦学生面談 ・オリエンテーション・事前研修 ・実習前に実習先への事前訪問 ・企業・団体実習 ・事後研修 ・報告会 (2018 (H30) 年 10 月 13 日予定)	A
		(取組 1) 留学生支援プログラム (ひょうご留学生インターンシップ) 個別大学では実施が困難な留学生に特化したインターンシップの機会提供を共同で実施し、留学生の県内企業等への就職意欲の向上を図る。参加留学生のニーズを勘案のうえ、受入企業・団体等を決定する。	参加者数： 平成 33 年度までに延べ 10 名 (主催大学以外の学生数)	■実施プログラム 「CCC Global Career Seminar in Japan Offered by Cross-Cultural College」 実施期間：2018 (H30) 年 8 月 1 日 ～8 月 10 日 参加者数：35 名 (うち日本側学生 22 名、カナダ側学生 13 名、主催大学以外は参加なし) 参加企業：日本アイ・ピー・エム(株)、(株)リコー、シュナイダーエレクトリック(株)、(株)花王、ガルーダ・インドネシア航空、オリックス(株)、在日カナダ大使館 (順不同)	B

発展型 I) (ひょうご産官学連携協議会)

				<p>●アンケート調査 全参加者 (35 名) に対して事前事後にアンケートを実施。94%の参加者が「異文化適応力が身についた」と回答した。</p>	
		<p>(取組 3) 兵庫県学生英語プレゼンテーション・コンテスト 県下大学生全体の英語学習に対する一つの目標を設定でき、モチベーションの向上を図ることができる。</p>	<p>参加校： 5 校以上/年 参加学生数： 15 名以上/年</p>	<p>■実施プログラム 「兵庫県学生英語プレゼンテーション・コンテスト」 日時：2017 (H29) 年 12 月 3 日 参加者数： 申込み総数 10 大学 116 名 本選出場者 6 大学 32 名 審査員：5 大学 5 名、協賛：7 企業 後援：神戸市を始め 5 団体 テーマ：「より多くの留学生を兵庫県に惹きつけるための施策の提案」</p>	S
		<p>(取組 4) プラットフォームを活用した留学生就職促進事業 大学、行政、企業が連携し、新たなネットワークを構築することでの受入環境づくりの促進と、卒業後の県内企業への就職の促進の動機付けを図る。</p>	<p>参加留学生： 100 名以上/年</p>	<p>■実施プログラム 参加留学生のべ数：980 名 ●合同企業説明会 「国際都市 KOBE で働こう！外国人のための合同企業説明会」 参加大学数：9 大学、多数専門学校 参加企業数：33 社 参加留学生数：540 名 ●留学生採用の県内企業情報HP 公開 (16 社) ●日本語能力試験 N 1 集中講座 参加大学数：9 大学 2 専門学校 参加留学生数：75 名 ●ビジネス日本語講座 ①「インターンシップガイダンス」 参加大学数：11 大学 参加留学生数：58 名 ②「マナー研修」 参加大学数：10 大学 参加留学生数：39 名 ③「就活ガイダンス」 参加大学数：11 大学 参加留学生数：43 名</p>	A

発展型Ⅰ) (ひょうご産官学連携協議会)

				<p>●就職活動 Q&A 講座</p> <p>①「インターンシップ修了生との懇談会」 参加大学数：11 大学 参加留学生数：58 名</p> <p>②「外国人留学生のための就活セミナー (模擬面接・エントリーシート講座)」 参加大学数：3 大学、専門学校 参加留学生数：50 名</p> <p>③「外国人留学生向け就職活動セミナー」 参加大学数：9 大学、専門学校 参加留学生数：80 名</p> <p>●先端産業企業見学バスツアー 訪問先：理化学研究所 「京コンピューター」 参加大学数：11 大学 参加留学生数：33 名</p> <p>●グローバル人材育成セミナー</p> <p>①「キャリアを考えるセミナー」 参加大学数：12 大学 参加留学生数：37 名</p> <p>②大学と企業との意見交換会 「元インターンシップ生が語る！ 外国籍人材の本音～キャリアと多様性～」 2018 (H30) 年 10 月 13 日 (予定)</p>	
		<p>(取組 5) 兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業 大学連携による国際交流の拠点を、大学キャンパス外の地域社会に形成することで留学生と日本人学生、地域の人々が学びあう多文化共生社会に向けた場を創造する。</p>	<p>参加者数： 500 名以上/年</p>	<p>■実施プログラム 参加者のべ数：703名</p> <p>●キャリアカフェ：計216名</p> <p>①「Nada Global Village (NGV)」 計10回</p> <p>②「Get ready for a successful job-hunting in Japan」</p> <p>③「デザインシンキング」</p> <p>④「起業家 森脇暉さんと巡る谷上ツアー」</p>	<p>S</p>

発展型 I) (ひょうご産官学連携協議会)

				<ul style="list-style-type: none"> ●学生企画チーム「Team G-Navi」 (9大学17名登録)による運営企画: 計104名 ①「兵庫県立大学GLEP留学生交流会」 ②「しゃべらへんde にほんご」 ●研修: 計114名 ①「ファシリテーションを学ぶ」 ②「ファシリテーション グラフィック」 ③「アクティブ・ブック・ ダイアログ」 ●「留学生と日本人学生が共に学ぶ 避難所運営ワークショップ」: 81名 ●「多文化共生から始まる防災・減災 と復興についてのシンポジウム」 : 140名 ●「国際交流委員会」: 22名 ●情報交換会「多様化する住環境支 援と受け入れ」: 26名 	
<p>4. 県下大学の教育・研究の質を高める多元的研修事業</p>					
<p>⑩ “ひょうご神戸”の特性を活かした教育力の向上</p>	<p>各取組への参加教職員数: 300名 (平成33年度までののべ数)</p>	<p>プラットフォーム参画大学の教職員に多様な研修等の機会を提供するとともに加盟校教職員間のさらなる交流を促進する。</p> <p>(取組1)プラットフォーム参画大学において、公開又は情報交換等に活用が可能であるFD・SDセミナーの情報を収集し、プラットフォーム参画大学に開放する。特に個別大学では十分な取組が難しい事務職員対象の研修会、もしくは加盟校教職員を対象とした大学教育に関する講演会を行い、コンソ加盟校職員の資質向上を図るとともに、職員間の交流を促進する。</p>	<p>公開セミナー開催数: 5件以上/年 情報交換等が可能なセミナー開催数: 1件以上/年</p>	<p>当協議会加盟校教職員の教育力向上のため、以下のプログラムを実施した。</p> <p>■実施プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ●開催セミナー数: 7件 参加大学数: 42大学 参加者数: 312名 ●セミナー情報の公開数: 5件 (関西学院大学2件、神戸学院大学3件) 参加大学数: 20大学 参加者数: 163名 	<p>A</p>

発展型 I) (ひょうご産官学連携協議会)

				<p>●情報交換等が可能な公開セミナー：2件 参加22大学、149名</p> <p>①2017(H29)年11月10日 演題：高大接続改革について 講師：文部科学省高等教育局 大学振興課入試室 室長補佐 荒木秀治氏 参加大学数：18大学 参加者数：88名</p> <p>②2018(H30)年7月12日 演題：高等教育の将来像と今後の大学運営について 講師：大阪大学高等教育・入試 研究開発センター長 川嶋太津夫氏 参加大学数：4大学 参加人数：61名</p>	
		<p>(取組2)「大学運営」に関する科目の受講支援 プラットフォーム参画大学が開講する「大学運営」に関する科目の、プラットフォーム参画大学職員の受講を支援する。</p>	<p>「大学運営」科目 の継続開講</p>	<p>2017(H29)年度後期講座において 当協議会加盟校から4大学17名が 受講した。</p>	<p>A</p>